

モンテネグロ

事実と数字

モンテネグロ国立観光機構



首都:	ポドゴリツァ市(Podgorica)
隣国:	セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、アルバニア、コソボ
国際空港:	ポドゴリツァ空港(TGD)、ティバット空港(TIV)
ヨーロッパ主要都市からのフライト時間:	約1〜3時間
年間を通じて利用可能な経由都市:	ベオグラード、ウィーン、イスタンブール、アンカラ、イズミル、ワルシャワ、ロンドン、チューリッヒ、リュブリャナ、フランクフルト、ローマ、ブタペスト、ドルトムント、メミンゲン、ミラノ
定期航空便:	エア・モンテネグロ、ターキッシュ・エアラインズ、ペガサス航空、エア・セルビア、ライアンエアー、ウィズエアー、オーストリア航空、LOTポーランド航空
季節運航便:	夏の観光シーズンには就航都市の数が大幅に増加します。季節運航便は変更される場合がありますので、航空会社の公式サイトで最新のフライトスケジュールをご確認ください。
人口:	63万3158人
面積:	1万3812km ² (福島県とほぼ同じ)
通貨:	ユーロ(EUR)。現金は一般的に使える
言語:	公用語は2007年からモンテネグロ語。そのほかセルビア語、ボスニア語、クロアチア語、アルバニア語も通用
タイムゾーン:	GMT+1(サマータイム採用)
宗教:	正教, イスラム教, ローマ・カトリック
気候:	温暖な気候に恵まれ、夏は晴天が多く乾燥し、冬は冷え込みます。快適に旅行を楽しめるベストシーズンは5月から10月
ビザ:	日本国籍の入国者は90日以内の滞在であればビザは不要
国内移動の交通手段:	モンテネグロを効率よく巡るにはレンタカーの利用がおすすめです。地域によっては長距離バスや鉄道も利用可能
料理:	アドリア海から北部の山岳地帯まで、多様な食文化。 ニェグシ村のプロシュート(生ハム)やカチャマク(トウモロコシ粉を練り合わせたモンテネグロのソウルフード)、イカ墨リゾットやエビの蒸し煮ブザラなどの伝統料理
アドリア海岸:	全長293kmの海岸線に、117のビーチが点在
ユネスコ世界遺産:	コトル旧市街、ドゥルミトル山岳国立公園、中世墓碑群「ステチャク」、ベネツィア時代の城壁建築群
国立公園:	スカダル湖国立公園、ドゥルミトル山岳国立公園、ビオグラツカ・ゴラ山地国立公園、プロクレティエ山地国立公園、ロブチェン山国立公園
保健・治安:	リスクは最小、犯罪発生率も低い
観光機構公式ホームページ:	www.montenegro.travel



モンテネグロ

ここだけの体験



豊かな自然の美に恵まれたモンテネグロ。手軽にまわれる小さな国土に、大きな感動がぎゅっと詰まっています。ここでは、この美しいバルカンの国を訪れる理由を8項目にまとめてみました。

1.

世界最古の オリーブの木を見よう

バール市近郊のミロビツァ村(Mirovica)に、モンテネグロでいちばん長生きの生命が存在します。「スタラ・マスリナ(古いオリーブ)」と呼ばれ、樹齢2,000年を超え、世界最古のオリーブの木といわれています。

2.

ヨーロッパ最深の 峡谷を跳び越えよう

ヨーロッパで最も深い谷、ターラ峡谷に架かるジュルジェビチャ・ターラ橋。恐れを知らず、スリルを求める方は、岸から岸へとジップラインで渡れば、空を飛ぶような感覚とともに、圧巻の景色を満喫できます。

3.

手つかずの原生林を 探訪しよう

ヨーロッパに残る原生林は、わずか3か所。そのうちのひとつが、モンテネグロのビオグラツカ・ゴラ山地国立公園にあります。豊かな緑が織りなすこの森の美しさは、実際に目にこそ実感できます。国立公園の中心には、氷河がつくり出したビオグラツコ湖が静かに輝いています。

4.

ヨーロッパ最大の ワイナリーでちょっと一杯

ポドゴリツァ市郊外のワイナリー・プランタージュ。2,500ヘクタールの敷地は、一体型葡萄園としてはヨーロッパ最大といわれています。かつては航空機の地下格納庫だったワインセラーは、ワイン愛好家だけでなく航空ファンにもおすすめです。



5.

ヨーロッパ最高の 鉄道橋を渡ろう

マール・リエカ (Mala Rijeka) 高架橋は、高さ200メートル、長さ498メートル。このモンテネグロ近代建築の華は、トンネルや鉄橋が連なる見事な山岳鉄道の一部を成しています。橋の名は「小さな川」という意味で、1969年に開通し、現在も現役で使われています。

6.

上流にも下流にも流れる 不思議な川を見に行こう

ボヤナ川はアルバニアとモンテネグロを流れ、アドリア海に注ぐ全長41キロの川。河口付近では、重い海水が川底を上流へ向けて遡り、軽い淡水は表面を下流へと流れ、川が上下両方向に流れる珍しい現象が起こります。

7.

絶壁に建てられた 修道院を訪ねよう

オストログ修道院は17世紀創建の由緒ある正教会の修道院です。古くから巡礼の地として知られてきました。ほぼ垂直の断崖の中腹にはめ込まれたように建てられた、その奇蹟のたたずまいは、建築ファンにとっても必見のスポットです。

8.

ヨーロッパ最深の峡谷で ラフティングを楽しもう

ターラ峡谷を体験するもうひとつの方法は、ホワイトウォーター・ラフティング。ツアーは毎日、モンテネグロ北部の川岸から出発し、透き通った川を下りながら、スリル満点の冒険が楽しめます。さらなる冒険を求める方には、岩からのダイブや、冷たい滝のしぶきを浴びる滝行も待っています。

バルカン半島に位置するモンテネグロは、古くからさまざまな文化・文明・宗教が交錯する土地でした。ヨーロッパでも屈指の美しさを誇るこの国は、小さな国土の中に想像を超える冒険と忘れられない体験が待っています。モンテネグロの山々からアドリア海の海岸まで、自然保護区や5つの国立公園、洞窟や峡谷、117の海水浴場のすべてが、地元の人々のあたたかな笑顔と伝統的なホスピタリティに包まれています。ここでは、モンテネグロを訪れる旅行者が絶対に見逃せない10の魅力をご紹介します。

1.

国立公園

モンテネグロには5つの国立公園があり、澄んだ山の空気や雄大な景色を求める人には理想的な場所です。国土のおよそ8%が公園の領域として保護されています。中でも印象的なのはドウルミトル山岳国立公園で、ほかにはロブチェン山、スカダル湖、ビオグラツカ山地、プロクレティエ山地の各国立公園があります。

2.

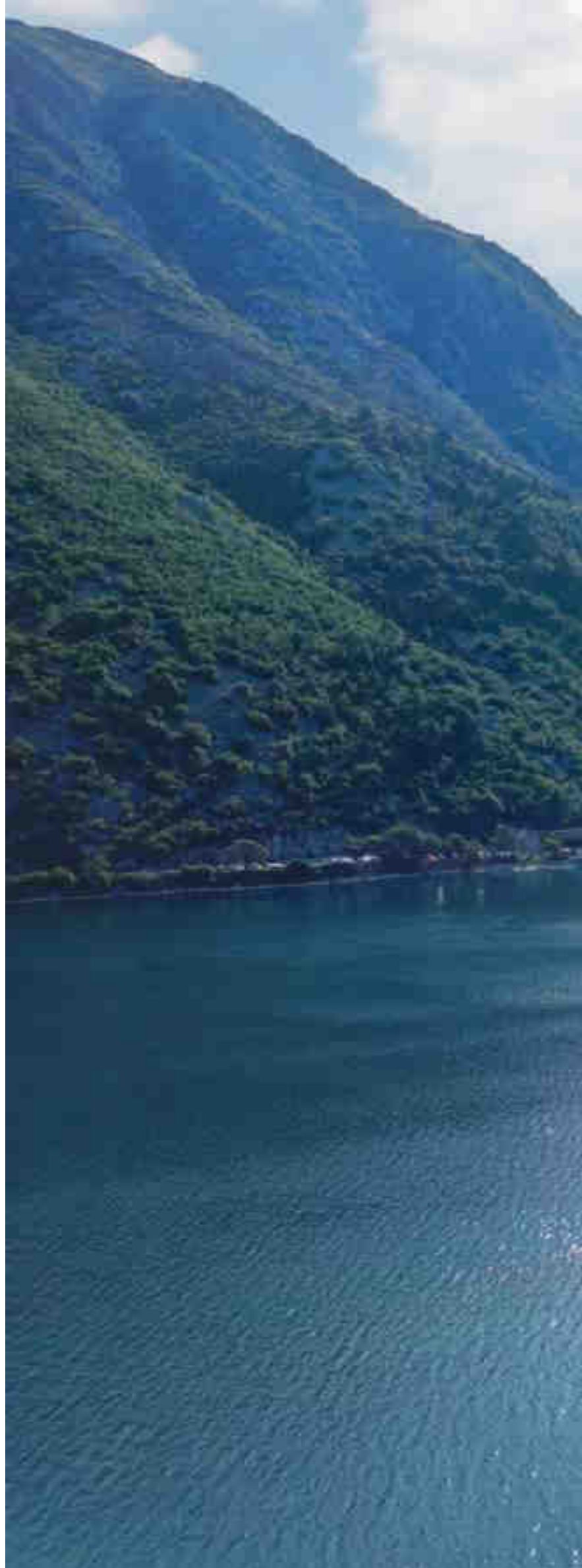
ユネスコ世界遺産

モンテネグロには、ユネスコに登録された世界遺産が4つあります。文化遺産3件と自然遺産1件です。コトル旧市街、ドウルミトル山岳国立公園、中世墓碑群「ステチャク」、そしてベネツィア時代の城壁建築群。さらに2021年には、コトル湾の伝統である「ボカ水軍」(Bokeljska mornarica)がユネスコの無形文化遺産に登録されました。

3.

大自然

山、湖、川に恵まれたモンテネグロは、まさに自然の宝庫。登山道やトレイルサイクリングのルートが全国に張り巡らされています。なかでも、ターラ峡谷でのラフティングやドウルミトル山岳国立公園の探索行は、ぜひとも体験したいところ。



コトル湾に浮かぶ岩礁の聖母教会

An aerial photograph of a coastal town in Montenegro. In the foreground, a small island with a church and a blue dome is connected to the mainland by a narrow path. The water is a deep blue, and the sky is bright blue with scattered white clouds. The town is built on a hillside overlooking the sea.

モンテネグロ 10の魅力

4.

美しいビーチ

モンテネグロの海岸線は全長293キロ、117ものビーチがあります。人目につかない入江から家族連れでにぎわうリゾートまで、アクセスのよい砂浜からボートでしか行けない岩場まで、さまざまです。どこへ行っても、アドリア海の澄み切った水があります。

5.

ワイルド・アドベンチャー

5つの国立公園、峡谷、湖、川。あらゆる場所で冒険が待っています。ターラ峡谷でのラフティング、ドゥルミトル山でのサイクリング、コトル湾でのカヤック、そしてネビディオ渓谷でのキャニオニングなど。

6.

絶景ドライブコース

最も美しい体験のひとつはコトル湾を巡るドライブです。フィヨルドを思わせる景観、迫るような山と濃紺の海のあいだを縫うアドリア海沿岸道路は、心に残る絶景を演出してくれます。

7.

観光都市

首都ポドゴリツァやかつての王都ツェティニェは、博物館や宮殿が建ち並ぶ歴史と文化の観光都市。アドリア海岸には魅力的な町が点在しています。海沿いの遊歩道が自慢のヘルツェグ・ノビ、堅固な城壁に囲まれた旧市街のあるコトル。この城壁に登れば、コトル湾が一望できます。



8.

豊かな歴史遺産

イリュリア人の昔から、紀元前2世紀のローマ時代の遺跡まで。リサン(Risan)やペトロバツツ(Petrovac)に遺る精巧なローマのモザイクは、今もなお訪れる人を魅了し続けています。そしてブドバ(Budva)は、アドリア海でも最も古いギリシャの植民都市として知られています。



潮の香につつまれ、海辺のランチ



かつて王室の御用邸だった
ミロチェルのビーチ

9.

地域色豊かな食文化

ニェグシ村を訪ね、土地の名物、プロシュート(生ハムの一種)とチーズとハチミツを味わってきましょう。アドリア海沿岸では、魚介類にオリーブオイルやレモン、パセリとニンニクのソースを添えた香り高い料理が楽しめます。スカダル湖では、ウナギやコイなどの川魚が定番。山岳地帯では、鉄の蓋をかぶせて炭火でじっくり焼いたイスポド・サッチャ(Ispod sača)という肉料理が名物です。

10.

デラックスな宿泊施設

近年、モンテネグロの海岸には、世界的に有名なブランドを含む5つ星高級ホテルが建ち並び、ゴージャスな滞在を楽しめる場所として注目を集めています。

モンテネグロ

自分を再発見する旅

時の流れも緩やかに、水のほとりをつくろぐ0.5m……リュシェティツァ半島

美しいビーチで身も心もリラックス

モンテネグロには、117ものビーチがあり、海辺でゆったりとした時を過ごすことができます。人混みを避けて静かに過ごしたい方には、ルシュティツァ半島のドブレチ(Dobreč)の入江がおすすめ。ヘルツェグ・ノビの町から船でしかアクセスできません。このビーチは、長年にわたって「ブルーフラッグ」に認定され、水質の良さが世界的に認められています。活気ある雰囲気を楽しみたい方には、ブドバがぴったり。ナイトライフでも知られるこの街には、モグレンやヤズのビーチなど、魅力的なスポットが数多くあります。もう少し静かでプライバシー感のあるビーチを求めるなら、スベティ・ニコラ島がおすすめです。透き通るような海とやわらかな砂浜が広がるこの島は、日光浴、海水浴、あるいは読書を楽しむのに最適です。

極上のスパ体験で、心と身体にご褒美を

モンテネグロ各地の豪華リゾートでは、心と身体を癒す多彩なウェルネスプログラムを楽しむことができます。特別なトリートメントやマッサージで身体の疲れを取り、サウナで心を解放し、マリーナを望むインフィニティプールで非日常のひとときを堪能しましょう。世界的水準のスパ施設と雄大な自然と調和した空間は、深い癒しを求める方には、まさに欠かせないスポットです。

海底ワイナリー

コトル湾に面するオラホバツツ(Olahovac)には、モンテネグロの最初にして唯一の海底ワイナリーがあります。海底でワインを熟成させるプロセスをスタートさせたのは2021年。このユニークな技術によりワインの熟成が進むだけでなく、ボトルもサンゴや海の生物に彩られて、まるで海が生み出した芸術品です。海上に浮かぶ小さなワインバーでは、ワインテイastingに加えて、ランチや海水浴も楽しめます。岩場の小道を抜け、ボートに乗れば、このユニークなスポットへとたどり着くことができます。





ホリスティックな 癒し

温泉とスパの休暇

モンテネグロには、治癒効果で知られる天然温泉が各地にあります。中でも有名なのが、ヘルツェグ・ノビ市にあるイガロ研究所です。天然のミネラルを含む泥と薬効豊かな鉱泉で知られています。泥風呂、水治療、マッサージなどのトリートメントで、心身ともにリフレッシュ。

山中での瞑想とヨガ・リトリート

モンテネグロの豊かな風景は、国内各地で瞑想やヨガ・リトリートに最適なユニークな環境を提供しています。澄んだ空気と雄大な山々に囲まれた大自然の中で行うヨガは、心体知のつながりを強め、内なる平穏へと導いてくれます。ヨガの癒しの力、Gaiaオーガニック・エネルギーヒーリング、自己探求ワークショップ、グループ・メディテーション、個別ヒーリングセラピーなど、多彩なプログラムを体験してみませんか。



モンテネグロ

国立公園を巡る 冒険の旅

1.

ロブチェン山国立公園

コトル湾の背後にそびえるロブチェン山(Lovćen)。この山こそモンテネグロ、つまり「黒山国」という国名の由来となった「黒い山」なのです。この石灰岩の山は、何世紀にもわたり戦士や聖職者や詩人の拠点となり、モンテネグロ文化の心臓ともいえる存在でしたが、今でも、国の象徴であり続けています。山の斜面には、かつての王都ツェティニエの町があり、国立公園を探访するには理想的なスタートポイントです。コトル市やブドバ市からも簡単にアクセスできます。観光スポットとしては、ツェティニエ市内の博物館や旧王宮や修道院、ハイキングやサイクリングコースの情報が得られるイワノバ・コリタ村(Ivanova korita)の国立公園案内所、

息をのむような絶景が見られる山上の展望台、そしてなによりも標高1,657メートルの地点にあるニェゴシュ廟と彫刻家イワン・メシトロビッチによる巨大なニェゴシュ像。ニェゴシュはモンテネグロが世界に誇る詩人で、その代表作『山の花環』『小宇宙の光』は日本語訳がありますので、ご一読ください。

帰り道にはニェグシ村に立ち寄って軽食を楽しみましょう。この村は、モンテネグロのペトロビッチ王家の祖先の地であるとともに、バルカン半島で親しまれているプロシュート、チーズ、ハチミツの産地としても知られています。



2.

スカルダル湖国立公園

スカルダル湖はバルカン半島最大の湖で、ヨーロッパ屈指の水鳥の棲息地として知られています。モンテネグロ側の全域は1983年より国立公園に指定され、雄大な自然が残されています。ここでは、絶滅危惧種ダルマチアペリカンやヒメウなど、280種以上の鳥類が観察できるバードウォッチングや、ビルパザール村(Virpazar)か、ブラニナ村(Vranjina)の国立公園案内所でボートやカヤックをレンタルしての湖上散策が楽しめます。また、修道院のある島々や、「モンテネグロのアル

カラズ」と呼ばれるグルモジュール要塞を訪れるのもおすすめです。リエカ・ツルノエビチャ村(Rijeka Crnojevića)までボートを漕ぎ、地元のレストランで川魚料理を味わうランチは格別。ワイナリーが点在する村や歴史ある要塞跡をサイクリングしたり、ムリチ村(Murići)のビーチでくつろいだり、ドドシ村(Dodoši)のレストランで休憩し、近くの川でひと泳ぎするのも楽しいでしょう。





3.

ドゥルミトル山岳国立公園

モンテネグロ北部に位置するドゥルミトルは「自然の宝石」と称され、この国を代表する国立公園です。標高2,000メートル級の山峰が48、「山の瞳」と呼ばれる氷河湖が18、まさに絶景の山岳地帯です。

ヨーロッパでも最も深い峡谷のひとつであるターラ峡谷もこの国立公園にあります。ターラ川が数千年をかけて刻んだ壮大な峡谷で、断崖の高さは最大1,300メートルにも達し、緑豊かな森に覆われています。ターラ峡谷の大自然を肌で感じたい方には、ラフティングがおすすめ。特に終盤の18キロは急

流が続き、多くの旅行社がツアーを提供しています。最も深い区間を訪れるためには、2日のツアーが必要です。

冬季は国内有数のスキーリゾートとして人気が高く、安定して雪があることで知られています。その中心がサビン・クック (Savin kuk) のスキーセンター。夏には登山愛好者の楽園に変わります。全長150キロにおよぶ整備された登山道が利用でき、ツルノ湖 (Crno jezero)を巡る2時間ほどの軽いハイキングから本格的な登山まで、多彩な楽しみ方が可能です。難易度の高いルートに挑戦するときは、経験豊かな地元のガイドを頼むのがいいでしょう。



バイオグラツカ・ゴーラ山地国立公園

4.

ビェラシツァ山脈に位置するバイオグラツカ・ゴーラ山地国立公園には、15平方キロメートルの原生林が保護されています。公園の入口から深い森に囲まれた美しいバイオグラツコ湖まで、約3.5キロを結ぶミニ観光列車が走っています。湖の周辺は、キャンプ場や山小屋が整備され、ボートやカヤックをレンタルして湖上散策を楽しむこともできます。伝統的な山の料理を味わえるレストランもあります。湖を一周する3キロのハイキングコースだけでなく、もっと本格的な登山やサイクリングに興味のある方は、国立公園のインフォメーション・センターで情報を入手することができます。夏は、かつて土地の羊飼いが使っていたカトウン(katun)という木造の素朴な山小屋に泊って山を歩く数日間のトレッキングツアーが人気を集めています。周りには美しい氷河湖や2,000メートル級の山々が連なり、なかでもツルナ・グラバ山は2,139メートルの高さで、ひととき目を引きまします。



プロクレティエ山地国立公園

大自然の冒険を楽しむなら、モンテネグロ最新の国立公園プロクレティエへ。アルバニアとコソボに隣接する160平方キロの山岳地帯を保護するために2009年、国立公園に指定されました。ディナール・アルプスの最南端に位置し、標高が最も高いこの地域は、ヨーロッパでもあまり調査が進んでいない未踏の地のひとつです。プロクレティエとは「呪われた山」という意味で、その名前自体、厳しい自然と野生の息吹を物語っています。ただし、この国立公園の魅力を味わうためには、必ずしも大冒険をする必要はありません。プロクレティエ体験のスタート地点はグシニエ(Gusinje)の町で、17世紀のビジエル・モスクを見学したり、麓の石灰岩から湧き出るアリ・パシャの泉まで片道30分ほどの散策を楽しんだりできます。インフォメーション・センターでは、本格的な登山道の情報を入手したり、地元のガイドを手配することも可能です。

5.

An aerial photograph of a rugged coastline. A steep, rocky cliff covered in green vegetation descends to a small, sandy beach. The water is a vibrant turquoise color, with rocky outcrops visible beneath the surface. The overall scene is bright and scenic.

モンテネグロ 輝く水と魅惑の ビーチ



長く広がる砂浜や、ひっそりと隠れた入江、透明なアドリア海の水。モンテネグロの海岸線は全長293キロ、117ものビーチがあり、それぞれが独得の魅力をたたえています。豊かな歴史と文化、ドラマチックな景観、そしてバルカン半島のビーチを誇るモンテネグロは、「ヨーロッパの秘宝」と呼ばれています。

隠れたビーチと入江

ヘルツェグ・ノビ市からボートでしか行けないドブレチの入江は、とても小さなオアシスです。地中海性の植物にあふれ、豊かな自然に恵まれたこの入江には、玉砂利のビーチがあり、新鮮な魚と伝統料理を出す小さなレストランもあります。長年にわたり「ブルーフラッグ」の認定を受けています。チャニ村付近にあるクラリチナ・プラージャ (Kraljičina plaža)。「女王のビーチ」というその名の通り、まるで王様か女王様のような気分になれます。ここも船でしかアクセスできません。赤みがかった細かい砂利の浜辺や澄みきった海、波の音に魅了され、ユーゴスラビア王国最後の王妃マリア・カラジョルジェビッチもこのビーチがお気に入りでした。

自然に抱かれたビーチ

ウルツィニ市は、ここにしかない恵まれた自然の美しさで訪れる人を魅了します。モンテネグロ最長のビーチに加え、海岸線は松やヤシの木に囲まれ、イチジクや柑橘類、ブドウ、ザクロなど、地中海ならではの旬の果物、そして地元産のアーモンドやオリーブも味わえます。この町のベリカ・プラージャ (Velika plaža)は「大浜」の名にふさわしく、全長12キロにわたる壮大な砂浜で、お子様連れの家族にぴったり。ビーチの南端にはカイトサーフィン・スクールもあり、ウォータースポーツに挑戦したい人たちに人気です。ウルツィニ市近郊、ボヤナ川の河口に位置するアダ・ボヤナ(Ada Bojana)はヌーディストや自然愛好者たちに人気の島。地元の人たちは、島には特別な力が宿っていると信じており、ボヤナ川が逆流する珍しい自然現象も、この場所ならではの魅力です。ペトロバツツの町にあるルチツェ・ビーチ(Plaža Lučice)は、素朴な美しさを保っています。松や糸杉やオリーブの林に囲まれた入江の奥にあり、遠浅なのでお子様連れでも安心して海水浴を楽しめます。

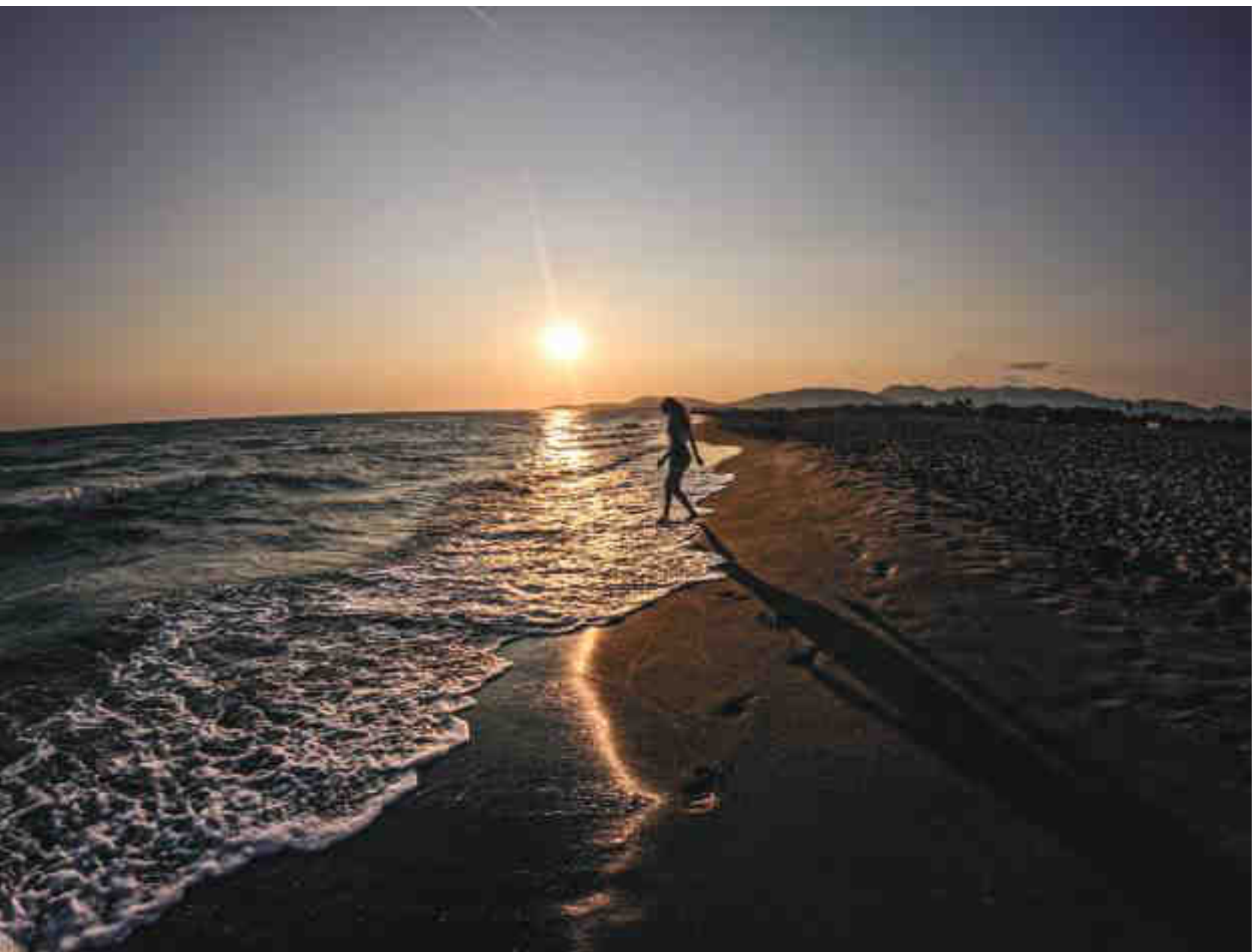


健康とウェルネスのビーチ

ウルツィニ近郊のジェンスカ・プラージャ(Ženska plaža)は「女の浜」という意味ですが、その名の通り女性専用のヌーディスト・ビーチです。水に含まれる硫化水素の濃度が高く、女性の生殖機能に良いとされています。ここは女性の天国で、松林の木陰でくつろいだり、近くの洞窟を探検したりと、癒しのひと時を過ごすことができます。ヘルツェグ・ノビのブラトナ・プラージャ (Blatna plaža)、つまり「泥の浜」は、薬効のある砂浜の泥で有名です。ビーチでは自然の泥を使ったトリートメントが無料で体験でき、多くの人に親しまれています。このビーチを訪ねたあと、リウマチなどの症状が改善されたという報告も。

エキサイティングなビーチ

音楽やビーチパーティーがお好きな方には、モンテネグロでいちばん有名なビーチクラブ「アルマラ」があるオブラトノのビーチがおすすめです。ティバットの近くに位置し、ゆったりくつろげる豪華なビーチチェアやモダンなバー、地元の食材を生かした料理、そして日の出から日の入りまで続く人気DJのパフォーマンスを楽しむことができます。家族連れにはベーチッチのビーチがぴったり。ブドバのすぐ隣、半島を隔てたところにあります。幅が100メートルもある長い砂浜で、澄んだ海と背後の山が美しく、岸边にはホテルやレストラン、アイスクリーム店が軒を並べています。



ウルツィニの大浜ビーチ



スベティ・ステファン島全景

アドリア海南部最大の島、スベティ・ニコラ島は、ヨーロッパの最も美しいビーチのコンクールで何度もランキング入りしてきました。ブドバの町の近くにあり、手つかずの自然に囲まれ、自分だけの世界が楽しめます。点在する小さな入江は遊歩道でつながっていますが、アクセスは海からのみという特別感があります。ブドバから南へ下るとスベティ・ステファン島です。モンテネグロで最も有名な観光名所のひとつ。島は15世紀から漁民が住むようになったといわれています。

すが、今や高級リゾートに生まれ変わりました。砂州で対岸に渡ると砂浜のビーチで、そこから赤い屋根の家並みと聖ステファン教会が織りなす島の全景が眺められます。古い港町コトルでは、海沿いの民家や民宿の前に小さな岩場のビーチが点在し、絵のように美しいコトル湾を一望できます。深い場所では、庭から直接、海に飛び込んだり、ボートを借りて沖に出たり、自分だけの特別な体験が楽しめます。

Montenegro Beaches App をダウンロードしてクリック。
モンテネグロにある100以上の砂浜や砂利のビーチ、岩場の海岸、エキゾチックな入江を簡単に検索できる便利なアプリ。位置情報でビーチまで正確にナビゲート。ビーチの詳細や周辺施設、最新の交通情報もチェックできます。

新設ロープウェイで一飛び 海辺からロブチェン山上へ

モンテネグロの特徴である海と山、中世と現代のコントラストに靈感を得て作られた新しいロープウェイは、中世都市コトルの魅力と内陸の素朴な村、歴史的な城壁とロブチェン山の自然美とを結んでいます。2023年8月14日にオープンしたこの新しいアトラクションは、海岸と山岳を直接結び、モンテネグロ屈指の絶景を楽しめます。ユネスコ世界遺産に登録されているコトル湾をはじめ、南部地域や、開発が進むルシュティツァ湾、そして天気の良い日にはクロアチアの海岸線まで見渡せます。コトル近郊から出発し、48台のゴンドラのひとつに乗り込めば、全長3.9キロの空中散歩がスタート、わずか11分ほどでロブチェン山上のクック村へ到着。

標高1,348メートルのクック村では、カルスト地形を抜けると雄大な自然と澄んだ空気が広がります。数多くのハイキングコースや美しいビューポイント、4つのエキサイティングなサイクリングルートが整備されています。さらに2024年には、新たにアルプス・コースターが登場し、国立公園を別の角度から楽しむことができるようになりました。

ロブチェン山は「黒い山」とも呼ばれ、モンテネグロの国名、すなわち「黒山国」の起源になった山で、この国の歴史と切り離せない存在です。山麓にあるニェグシ村は、歴代の支配者だったペトロビッチ家の故地で、19世紀の詩人で主教公だったペタル2世ニェゴシュや、第一次大戦の結果、王国最後の王となったニコラ1世など、歴史的人物を輩出しました。クック村からは、標高1,657メートルのニェゴシュ廟を訪れることができます。世界一標高の高い場所に建つ霊廟といわれています。麓の駅にはアイスクリーム店、ワインバー、スーベニール・ショップがあります。山頂の駅にはバーやしゃれたレストランがあり、テラスからはパノラマが満喫できます。さらに内陸部を探訪したい方は、そこからわずか18キロ、モンテネグロの旧王都ツェティニェに向かわれることをおすすめします。

このプロジェクトは、九十九折の難所で知られたニェグシ旧街道の利用を減らし、有害ガスの排出を抑えることで、ロブチェン山国立公園の自然環境を保護することを目的としています。

【テクニカル・データ】

高低差：1,316メートル

全長：3,900メートル

所要時間：11分

最大速度：6m/秒

ゴンドラ数：48台

運行期間：4月～10月

運行時間：始発便9:00、上り最終便18:30、下り最終便19:00

最大輸送人数：1時間あたり1,200人

ゴンドラ定員：最大10名

このコトル・ケーブルカー・プロジェクトは、世界有数のゴンドラメーカーLEITNER社との協力により実現し、投資総額は2,420万ユーロです。





海から空まで 11分の旅

コトルのケーブルカーから望むコトル湾の絶景





モンテネグロ

マジカル・イベント

2月

ミモザ祭り (ヘルツェグ・ノビ市)

春の訪れを祝う「ミモザ祭り」は、海辺の町ヘルツェグ・ノビで開催されます。街はカーニバルや展覧会、花飾りで賑わいます。この国の春のシンボルでもあるミモザの鮮やかな黄色い花。ポランティアが1万本以上もの枝を摘み、美しいブーケにして街中で配ります。祭りの期間中、ミュージシャンやダンサーが華やかに街を練り歩き、訪れる人々には揚げたての魚やワインやミモザの花が無料で振る舞われます。この伝統のミモザ祭り、2024年には55回目を迎えました。

2月

冬のカーニバル (コトル市)

コトルの「冬のカーニバル」は500年の歴史を誇る、モンテネグロを代表する伝統行事です。カーニバル・キャプテンを先頭にパレードが街を練り歩き、最後には街の「災いのもと」を象徴する人形が焼かれます。5日間にわたる祭りでは、音楽プログラムやコンサート、子ども向けアトラクション、さまざまなコンテストが開催され、2月最後の日曜日にクライマックスを迎えます。

5月

カーニバル (ブドバ市)

ブドバは陽気な祝祭やカーニバル、漁師たちの集会のような活気あふれる雰囲気知られています。毎年5月初旬には、春の国際仮装舞踏会が開催され、古い町並みは色とりどりの衣装で華やぎます。このカーニバルの期間中、通りや広場はミニコンサートやDJパフォーマンスのステージとなり、娯楽を求める人たちのメッカといわれます。



8月

モンテネグロ映画祭 (ヘルツェグ・ノビ市)

毎年8月第1週に開催されるモンテネグロ映画祭は、30年以上続く伝統あるイベント。世界各国の最新の映画やドキュメンタリーが上映されます。旧市街にあるコトル湾を見渡す中世の要塞カンリ・クーラの会場が幻想的な雰囲気を醸し出します。



7月

ファシナーダ (ペラスト町)

モンテネグロのイベント・カレンダーの中でも特に有名なのが、1452年から続くペラストのファシナーダ祭です。祭りは、満艦飾のボートの華やかなパレードで始まります。ボートは岩礁の聖母教会の建つ島の周囲を巡り、地元の人々は昔ながらの習わしに従って、島の土台を補強するために周囲に石を投げ入れます。祭りはその後、魚料理を囲みながら民謡を歌い、夜遅くまで続きます。



8月

コトル湾の夜祭り (コトル市)

ボケリスカ・ノーチ(ボカの夜)は、コトルで最も人気のある夏のイベントで、8月の後半に開催されます。観光客と地元の人たちが海辺に集まり、明け方までパーティーや花火、満艦飾の船のパレードを楽しみます。パレードはライトアップされた湾を進み、旧市街近くの野外ステージでの無料コンサートで終わります。

11月

オリーブ収穫祭 (バル市)

静かなバルの古い町並みが一变し、伝統的なオリーブ収穫祭の舞台となります。1万人を超える人が集まるこのイベントでは、地元ワインの試飲会や民族舞踊団の出演があり、そしてなによりもオリーブ食品の試食が楽しめます。



詳しい情報は、以下の
公式サイトをご覧ください。

www.montenegro.travel

10月

アジ祭り (ブドバ市)

ブドバ旧市街で開催される、魚とワイン、ビールを楽しむ1日だけのローカルフェスティバルです。入場は無料。漁師たちは、旧市街の城壁沿いに設けられた5つの屋台で、1,500キロものシルン(アジの一種)を焼き上げ、訪れた人々に振る舞います。地元の音楽やダンスも楽しみ、活気あるひとときが味わえます。

12月

ワインとコイ祭り (ビルパザール村)

スカダル湖畔の村ビルパザールで開催されるこの祭りは、地元料理の魅力を紹介します。特に地域の特産品であるワインと、湖に自生するコイの一種ウクリエバが主役です。





モンテネグロ国立観光機構

モンテネグロ国立観光機構 (NTO Crne Gore) は、モンテネグロの観光を世界に発信し、観光地および観光ブランドとして国を発展させる役割を担っています。市場調査、国内外の観光機関や観光産業との連携、広報活動および広告宣伝の企画と実施などを任務としています。また、モンテネグロ観光の持続可能な開発や可視化のため、地域の観光機関を支援しています。国の観光大使として、市民と訪問者の双方にインスピレーションを与え、モンテネグロの魅力と文化を広く伝えることを目指しています。

詳しい情報は、モンテネグロ観光機構公式サイトをご覧ください。

www.montenegro.travel

モンテネグロ観光機構公式SNS

- Instagram: @gomontenegro
- FB: MontenegroWildBeauty
- YouTube: Montenegro
- X / Threads: @seemontenegro